

薬学部薬学科

米田淳樹



私は、今回のハンガリー研修を通して、リーダーシップの本質について学ぶことが出来ました。この研修では、異なる文化や価値観をもつ BUEB の学生と協力しながら課題にとり組む機会が多くあり、佐藤先生の「異文化の人々との共同作業」という特別講義や、ブダペスト市内でのフィールドワーク、BUEB の学生とのプレゼンテーション準備などの実践を通して、リーダーシップの重要性について深く理解することが出来ました。リーダーシップとは、単に人を率いる能力を指すわけではなく、他者に影響を与え、共通の目標に向かって導く能力であると感じました。そのため、リーダーに求められるものとは、カリスマ性や高い能力のみではなく、共感力や適応力、判断力といった要素も必要不可欠であると学びました。ハンガリー研修では、異なる文化や慣習、価値観をもったメンバーと基本的に行動を共にしていたため、コミュニケーション不足や、価値観の違いによるすれ違いも多々あり、物事を比較的是っきりと言うハンガリーの学生に対し、遠慮しがちな日本人学生ではコミュニケーションがうまく取れないこともありました。また、最終プレゼンテーションに向けて作業をしている時にも、メンバー全員が初の参加となる日本人学生と、例年のプロジェクトに何度か参加している学生も複数名いるハンガリーの学生とでは、作業の進め方にも相違があり、作業が難航する場面も見受けられました。このような状況の際、現地学生のリーダーが私たちメンバーの仲をとりもちつつ、互いの意見を汲み取り、円滑に場をコントロールする場面を目の当たりにし、求められるリーダーシップとはこのような能力だと改めて感じました。このように現地で私たちを常に気にかけて、共通した目的のために的確に、私を含め、日本人、ハンガリー人のメンバーを導いてくれたハンガリーのリーダーたちには尊敬と感謝の念に堪えません。



この研修期間中、私たちは数多くの歴史的建造物を訪れ、素晴らしいハンガリー料理を食べ、たくさんのかげがえの無い時間を現地の学生と過ごしました。これらを踏まえ、言語というものはただのコミュニケーションツールのひとつにしか過ぎず、新たな人との出会いは、言語の壁を超えて私たちの人生を豊かなものにし得ると改めて感じました。ハンガリーはおろか、ヨーロッパ諸国に訪れることが初めてだった私にとって、今回の研修で見聞きし、感じたこと全てが新しい体験であり、有意義な経験であったと感じます。街並み一つをとっても、石造りで建てられた建築物全てを荘厳に感じ、建物に施された装飾一つ一つが可憐にみえ、日本で生活していると感じ得なかった感情にハンガリーでは湧き出る湯水のごとく浸ることが出来ました。私たちが訪れたマーチャーシュ教会やグドゥルー宮殿、国会議事堂では、アンナ先生がそれらが建設された歴史的背景や、政治的情勢などについて事細かに説明してくださり、ただ訪れるだけでは知り得なかったことも学ぶことができ、大変有意義なものであったと感じます。

今回のハンガリー研修を通して出会った人、以前から交流があり、何があっても私を支えてくれ、久しぶりの再会を喜び合った人、これらすべての人に感謝し、これからも彼らと出会うきっかけとなった語学を含め、自己研鑽に励もうと思います。

